

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591100031		
法人名	特定非営利活動法人 ひまわり		
事業所名	(NPO)グループホームひまわり		
所在地	山口県長門市油谷伊上字中上り野2238番		
自己評価作成日	平成22年9月18日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの思いや希望に沿った生活支援を働きかけ穏かであり、生き甲斐や喜び、楽しみを見い出せるように努めている。その中で利用者と職員が共に食事を作ったり食器を片付けたりとGHの特性を生かしつつ利用者間、利用者と職員との信頼関係の構築に当たっている。また介護職、看護師とが密に情報を共有し、協力医との連携を図ることで病状の早期回復に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域での生活の延長で今までのかかりつけ医への受診が継続してできるように支援し、内科・眼科など全ての医療機関の受診の送迎や付き添いをされて、職員の看護師等が主治医と連携を図りながら適切な医療が受けられるように支援されています。地域との交流を大切にされ、地域の祭りに参加したり、事業所での催し(毎月1回のお寺の住職の法話やボランティアによる貼り絵教室、隔月のカラオケ教室)に地域の人を招かれたり、年2回の家族会行事など、家族や運営推進会議のメンバー、地域の人々の協力のもとで、地域に密着したサービスを提供されています。地域の人々も事業所を地域の社会資源として活用され頼りにされています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働けている	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として、人権とニーズを尊重し生活の場としての環境を整え、生活の向上に日々努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事務所内に掲示している。ミーティング等で理念を共有するように努め、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設で行事を企画し、地域住民に参加を呼びかけている。また地域の行事に参加できる利用者さんに呼びかけている。	自治会に加入し、地域の祭りに行ったり、事業所の行事(法話、貼り絵、カラオケ教室)に地域の人々も参加して交流している。ボランティアの来訪もあり、介護の仕方などを地域に情報提供し、魚や果物、野菜などの差し入れもある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあい祭り、どんど焼き、運動会等に参加して交流するとともに、社会福祉協議会の福祉まつりに作品を出品したり、小学生の体験学習を通してプレゼントを贈ったり、手紙を貰ったりしている。地藏参りや八幡宮参りの途中での挨拶や交流をしている。		
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義等を説明し、自己評価のひとつひとつに意見を出し合い、まとめて作成している。評価結果は職員会議や運営推進会議で話し合い、改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、管理者は自己評価書を全職員に配布し職員会議で話し合って作成している。自己評価をすることでケアの目標を再確認し、外部評価の結果を検討し改善に取り組んでいる。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、自治会長、民生委員、消防署員、地域住民、利用者、家族、高齢障害課職員のメンバーで外部評価の報告、利用者の状況報告、重度化やターミナルについての話し合いをして、サービスの質の向上に取り組んでいる。	自治会長、民生委員、福祉委員、消防署員、地域住民、市介護保険課職員、家族、利用者、職員等で2ヶ月に1回開催し、状況報告、行事報告、新型インフルエンザ、外部評価報告、利用者や家族の要望、防災訓練等について話し合いサービスに活かしている。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課と相談や情報交換をしている。社会福祉協議会と情報交換や交流をしてサービスの質の向上に取り組んでいる。	日頃から積極的に向かい合っている市の担当者と連携を図り、介護保険に関する助言を受けてサービスの向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内へは自由に出入りできるように昼間はいつも玄関を開放し、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを作成し、新任研修で全職員が身体拘束の内容や弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関に鍵をかけないで見守り、外出を察知したら一緒に散歩をしている。	
8		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待、言葉の暴力などにも気をつけ、常に注意を払い防止に努めている。		
9		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースは現在まで無いが、これからは地域の社会福祉士のメンバーの一員として知識を広め地域に貢献できる社会福祉士であるように勤める。		
10		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとり利用料金、ケア方針等の説明を行い理解、納得してもらえるように努めている。		
11	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、来訪時や近状報告で意見など頂ける様にしている。また相談苦情を受け付ける窓口も明示している。	面会時、電話、毎月の便り、家族会、運営推進会議などで家族等の意見や要望を聞き運営に反映させている。苦情相談窓口や担当者、外部機関を明示し、苦情処理手続きを定めている。	
12	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや職員会議、個別面談で要望など聞くように努めている。	管理者や施設長は、職員会議を開催して職員から出た意見を運営に反映させるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状態をおおむね把握しているが、意見、要望等ある場合は相談し易い環境作りを行っている。		
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	定期的な事業所内の研修を行い、その他の研修に関しても職員、パートに関係なく参加している。	内部研修や外部研修に参加して、職員会議等で復命している。全職員が研修を受ける機会を確保し、働きながら学べるようすすめている。	
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国GH協会及び山口県GH協会に属し会員として研修、勉強会などの交流に代表者及び職員が参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時には、本人の話を傾聴し生活状況や思いなど理解に努めている。利用に当っては申し送り等で、職員へ情報を伝えている。		
17		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経験について一つひとつ聞くようにしている。ご家族の思い事業所がすべき事、できる事などを話し合っている。他の利用者や職員と顔馴染みなので落ち着いた雰囲気の中スムーズに開始されている。		
18		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さん本人や家族の話をよく聞き、本人に必要な支援ができるように努めている。		
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常を穏かに過ぎて頂けるように触れ合い信頼関係を大切にし環境作りに心掛けている。また梅干漬けや魚さばき等、入居者からアドバイスを受ける場面もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを大切にし利用者の様子を伝えながら本人を支えていく為の家族と職員の思いをまとめ支援につなげている。		
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人友人が面会に来られた時は、職員も間に入り話を聞いたり喜びを共有している。またドライブなどで馴染みの場所に行ったりしている。	家族や地域の人に参加できる交流行事を開催し、買い物、墓参り、自宅訪問、外食、スーパー、花見、地域の祭りなどに出かけて、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶、食事の時間に職員が間に入り利用者同士の良好な関わりが保てるよう努めている。		
23		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気などで退去されてもお見舞いに何うなど付き合いを大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、把握するよう心掛けている。一人ひとりの思いや希望、訴えを受け止め家族とも検討している。	利用者により添って思いや意向の把握に努め、パーソナルチェック表に言葉や行動などを記録している。把握が困難な場合は、家族と話し合い本人本位に検討している。	
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供や入居時及び折に触れた本人や家族より話を聞き職員会議で情報を共有し把握できるようしている。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや習慣の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より本人の思いの把握に努めている。生活に変化が生じた時や意思疎通の困難な方には家族の思い意見を聞きミーティングを行っている。	その都度ケース会議を開催し、モニタリングをもとに本人や家族の希望、主治医や職員の意見を反映させて介護計画を作成している。	
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に日常の様子を細かく記入している。情報の共有については連絡帳にて全職員に伝わるようにしている。		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院からの受け入れが多く、歩行困難な利用者さんについても看護師の指導によりスタッフ全員で歩行訓練に取り組んでいる。以前に無い器具も取り揃えた。		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りなどに参加して皆さんの輪に入り、地域資源を活用して、以前と変わらない外出支援をしている。		
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医のほか本人家族の希望の病院での受診も可能、家族同行の受診が基本であるが、大体が看護士対応の下、受診している。	かかりつけ医の希望を聞き、今までの医療機関や協力医療機関がかかりつけ医になっており、全ての医療機関への受診の送迎と付き添いを行なって適切な医療を受けられるように支援している。	
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には看護師を配備しており協力医院との連絡は密にしておりドクターと気軽に相談できる体制が確保されている。尚且つ施設内で点滴等の対応もしている。		
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者、家族が安心して治療でき早く退院できるように病院との連携に努め、常に利用者さんの状況は把握している。退院時にも病院スタッフ、家族、当施設との三者会議に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	正看護師が居る事により終末期に向けた看護支援等、家族の要望により看取り支援の対応に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた事業所の方針を入所時に説明している。重度化に向かった場合は早い段階から家族や主治医、職員と話し合っって個別の方針を共有し、看護職員を中心に医療連携を図り、できる限り家族の要望に応えるように努めている。	
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	知識を身につけ事故を未然に防ぐ努力をしている。万一発生した場合ヒヤリハットに記入し原因を見極め職員の共有認識を図っている。消防署より来訪して頂き訓練を行っていたが尚且つ定期的に朝のミーティング時に器具の取扱い訓練などを行っている。	ヒヤリはっと報告書や事故報告書に記入して検討し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。全職員が応急手当等の実践力を身につけるための定期的な訓練には至っていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を頂き避難訓練、火災訓練を実施、地域の協力もあり緊急時に駐車場の確保も出来ている。	年1回火災・避難訓練を実施し、利用者や地域の人も参加している。スプリンクラーも設置している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、自尊心を傷つけないよう声かけに配慮した対応に努めている。	職員は新任研修や職員会議等で学び、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をするように取り組んでいる。	
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決め付けず日常的に自己決定できるようにゆったりと個別の対応を心掛け本人の思いや希望に耳を傾けるように支援している。		
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意見、その日の気持などを察し、何がしたいのかを聞き取る努力をしながら何に興味を示したか見逃さないようにしている。		
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院へ行きたい方は、送迎のある美容院を利用しており、その日の体調や行事に合わせその方らしいお洒落が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんの食べたい物を聞いて献立を決めることもありホームで収穫した野菜と一緒に調理したり食後の片付けなど一緒にしている。	三食とも事業所で調理し、新鮮な魚や野菜の差し入れもあり希望の献立も聞いている。食材の買い物、野菜の下ごしらえ、盛り付け、配膳など利用者と職員が一緒に行い、食事が楽しめるように支援している。	
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のおおまかな把握、栄養バランスは1日の栄養素を考慮し個別に体調に合わせた食事の提供をしている。		
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがいや毎食後の声かけや見守りで一人ひとりに応じた支援をしている。全利用者が義歯なので義歯の手入れの指導を受け、歯ブラシの清掃や消毒、義歯の保管の支援をしている。口腔ケアのマニュアルを作成し、研修の受講者もあり、清潔保管に努めている。		
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要に応じたオムツやパットの使用をし、布パンツとパットに切り替えている。時間誘導や声かけトイレサインを見逃さず対応を早めはやめにしていく	全員が日中は布パンツで、排泄パターンを把握して一人ひとりに応じた声かけや、食事やおやつ前後、入浴前などにトイレに誘導して、排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を小まめに行い、食事に注意し摂取量をきちんと把握。声かけをし摂取誘導している。排泄状況をチェックし5日を過ぎ腹満感を聴き取り、主治医と相談しながら緩下剤の服用を勧め調整している。		
46	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望者には、毎日入浴できる環境である。時間帯においては14時30分開始で対応している。	入浴は毎日14時30分から可能である。入浴を嫌がり間隔が空く場合は家族と話し合って無理の無い入浴回数を工夫し、シャワー浴や衣服の着替えなどで支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間などその方のペースに合わせて支援している。昼食後ほどソファや和室でゆっくりして頂いたりテレビ鑑賞されたりその時の状況に合わせて休息していただいている。		
48		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から提出される。薬剤に関する情報は全て個人ファイルに閉じ込み、職員全員が理解できるようにした上で、大事さを認識、一人一人が確実に服用するまで見守り服用している。		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生花、針仕事、詩吟、ぬり絵、俳句、貼り絵、歌、ゴミ箱作り、芋掘り、法話、ドライブ、畑仕事などの楽しみごとや気晴らしの支援や、皮むき、梅干し漬けなど経験や知恵を発揮する場面を作っている。	カラオケ教室、法話、貼り絵、塗り絵、家族交流会行事(花見など)、ドライブ、外食、買い物、芋掘り、食事の準備など、楽しみごとや活躍できる場をたくさん作って支援している。	
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の天気や利用者の状態や希望、季節や地域のその時の状況に応じて外出を楽しめるよう、草取り、買い物、散歩、四季の花見、寺参り、ドライブ(疲れない程度)など戸外に出かけられるよう支援している。	散歩やドライブ、花見、外食などに気軽に出向き、希望にそって外出をしている。墓参りや法事、外泊などは家族の協力を得ながら外出の支援をしている。	
51		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人については、見守りで財布の出し入れを行い、できない人については、預かり金で対応している。		
52		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと言われる方は、使用して頂いており家族より本人にかけてもらうなどして電話での会話を楽しんで頂いている。また手紙を書かれる方も楽しんでやりとりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭がある棟や、天井を広く取り自由な空間の棟、また玄関に生け花、廊下の壁には利用者の写真や貼り絵の作品など、楽しい雰囲気を持つ工夫をしている。台所の調理の音や匂い、食卓での笑い声など生活観が感じられ、畳の間やソファで一人ひとりの居場所が取れ、中庭の植物や生き物、毎月代わる観葉植物で季節を感じれるように配慮している。	共用空間は明るく広く憩いの場になっており、調理の様子や外の景色が眺められ、木造で家庭的な雰囲気があり、新築で木の匂いが感じられるユニットもあり、生活感や季節感を感じられて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれる場所としては居室のみ居場所作りとして、空いたスペースにはソファを置いたり畳の敷物が工夫している。		
55	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、衣装ケース、ぬいぐるみ、時計、家族の写真、椅子、のれん、貼り絵作品など、利用者の使い慣れた家具や好みの物を持ち込み、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	居室は広く、馴染みの家具や椅子、テーブル、仏壇などが持ち込まれ、洗面台やエアコン、ベットなどが設置されている。家族の写真や利用者の作品を飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は入り口からバリアフリー化し、廊下には手すりがあるなど安全な環境づくりの中で、自立した生活が送れるように工夫している。		